

川越市都市計画マスタープラン地域別構想骨子案

地域別構想の区分

区分

本庁

大東

芳野

霞ヶ関

古谷

川鶴

南古谷

霞ヶ関北

高階

名細

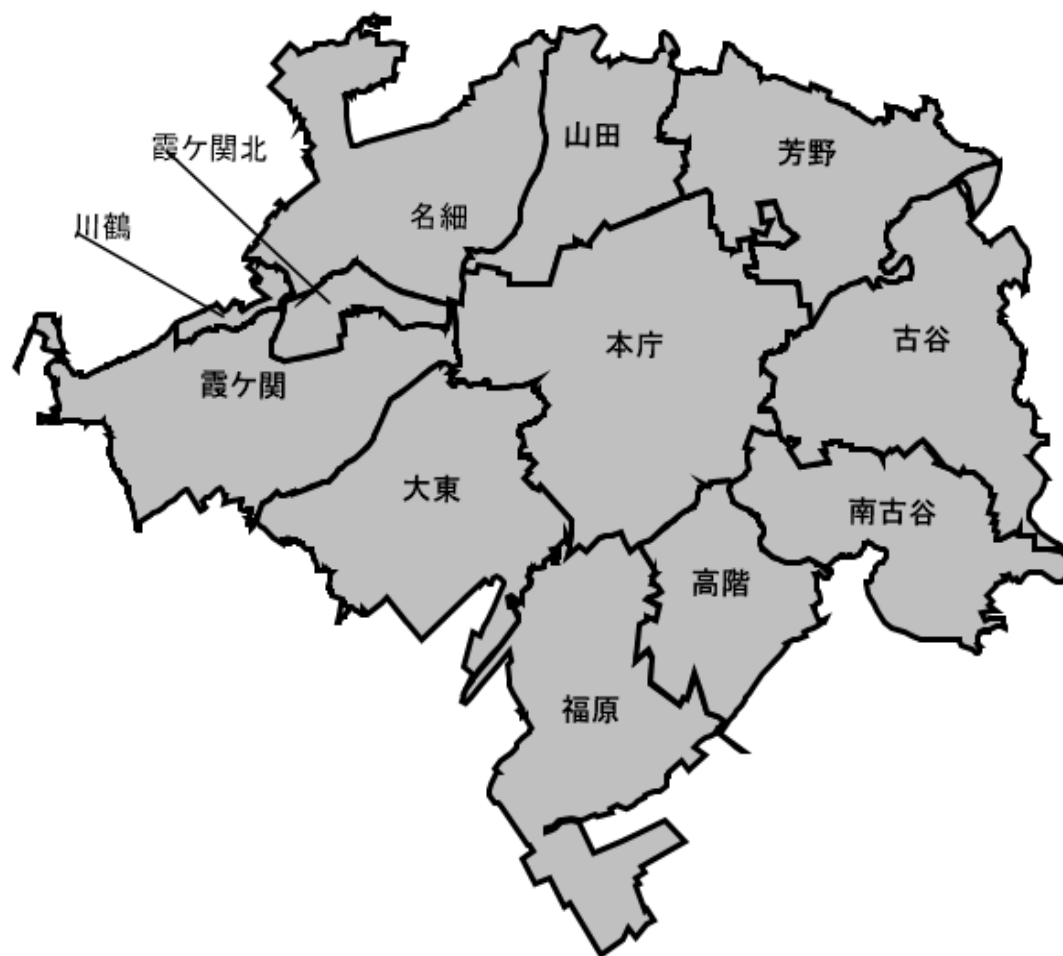
福原

山田

地域別構想は、全体構想で示された骨格を基に、地域の個性や特性を取り入れながら、まちづくりの内容をより具体化するものです。

本計画の地域区分については、歴史的な背景や地域のまとまりを踏まえ、昭和30

（1955）年当時の川越市と周辺9村ごとのまとまりを基本に市役所市民センター管轄によって12地区に区分しました。なお、平成26（2014）年川越市市民センター条例の施行により誕生した川鶴地区については、今回新たに地域別構想を策定します。



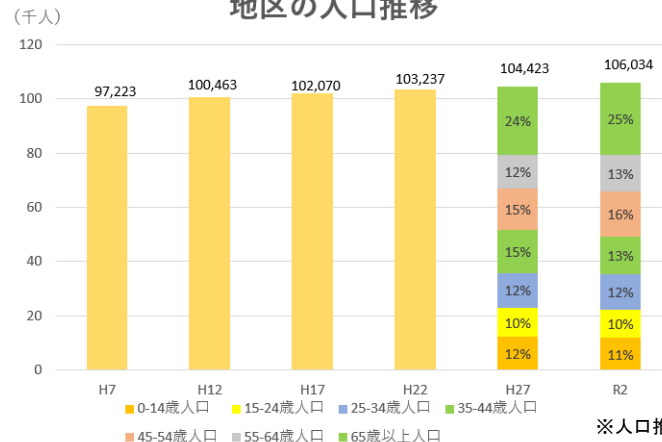
基本データ

- 面積 約1,734.1 ha
- 人口 106,034人
- 世帯数 51,717世帯

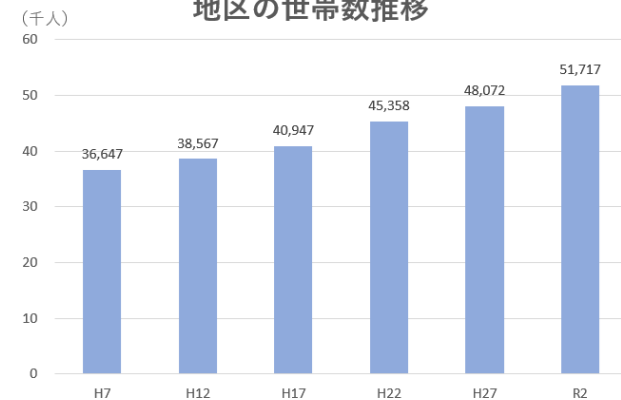


※令和2年1月時点

地区の人口推移



地区の世帯数推移



※人口推移のH22以前は国勢調査から作成、それ以外は住民基本台帳から作成、各年1月時点

まちづくりの動向・課題

◆道路交通問題への対応

- ・道路網は江戸時代の町割りが基本となっているため、現代の自動車交通への対応が不十分であり、慢性的な渋滞やバスの定時性確保等の課題がある。また、観光客の増加により、中心市街地に暮らす人の移動環境の悪化や人と車の錯綜に伴う歩行者の安全対策が急務になっているほか、駐車場対策も必要となっている。
- ・平成31年3月川越北環状線の開通により環状道路網の整備が進んだものの、さらなる交通環境の改善は必要である。また、沿道においては、周辺に配慮した土地利用が期待される。

◆市街地構造と地区に応じた秩序ある土地利用を誘導

- ・三駅(川越駅、本川越駅、川越市駅)周辺の県南西部地域の拠点を中心に、北部には伝統的町並みが残る歴史的環境をもつ商業観光地があり、周囲には落ち着いた中低層の住宅地が広がっており、さらにその外側には農村地帯が広がる市街地構造となっている。
- ・今後も地域の特性に応じ、都市機能の充実、住環境の維持・向上、農地等の保全・活用を図り、秩序ある土地利用を進める必要がある。

◆歴史的な町並み環境のうるおいと安全性

- ・一番街(蔵造りの町並み)を中心として、伝統的建造物群保存地区の都市計画決定をはじめ、川越市景観計画、歴史的風致維持向上計画等により、歴史・文化・景観等の地域特性を生かし、その環境の維持を図っている。

本庁地区②(まちづくりの方向性)

区分	本庁	芳野	古谷	南古谷	高階	福原
	大東	霞ヶ関	川鶴	霞ヶ関北	名細	山田

まちづくりのキャッチフレーズ

時代がささやき、風かおる出あいの街

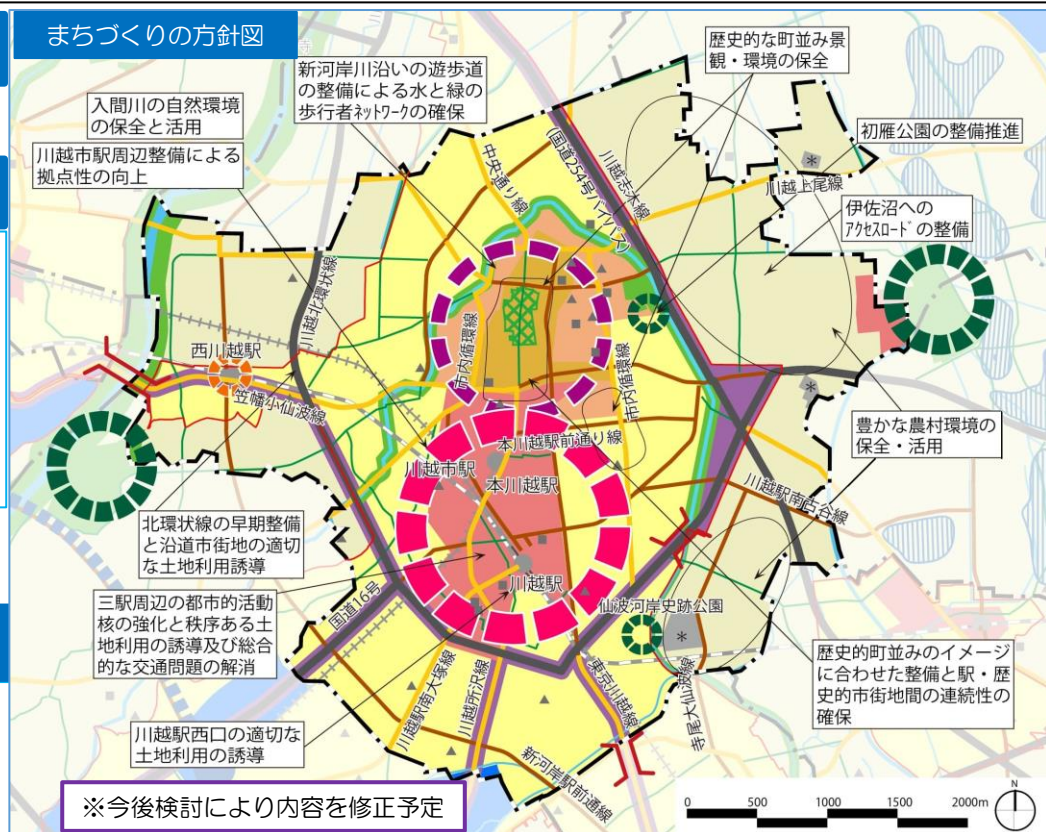
まちづくりの目標

- ◆情報、文化が集積し、新旧の町並みがそれぞれ発展するまちを目指そう
- ◆散策が楽しい緑豊かなうるおいある町並みをつくりだそう
- ◆だれもがともに働き、ともに暮らせるやすらぎのあるまちにしよう

まちづくりの方向性(案)

- ◇三駅周辺の商業・業務・行政拠点としてのさらなる強化を図る
- ◇川越市駅周辺整備により拠点性の向上を行い、三駅の連携強化を推進する
- ◇歴史的環境と調和した落ち着きのある商業・住宅地を形成する
- ◇都市計画道路等の幹線道路網整備を必要に応じて検討し段階的に整備を推進する。また沿道の立地特性を生かした適切な利用を誘導する
- ◇歩行環境の向上と交通渋滞対策を推進し、適切な交通対策を検討する
- ◇引き続き適切な交通手段の充実を図る
- ◇身近な公園等の整備によるうるおいのある生活環境の形成を図る
- ◇歴史的な町並み景観・環境の保全・活用を図る
- ◇木造建築物が密集している地区での火災震災に強い建築物への転換を図る

まちづくりの方針図



<土地利用>

- 住宅地
- 歴史環境複合住宅地
- 商業・業務地
- 歴史環境複合商業地
- 工業地
- 沿道型利用地
- 農地・樹林地・集落地
- 公園・緑地
- 都市施設
- 市街化区域・市街化調整区域

<道路・水路・資源等>

- 広域幹線道路
- 都市間幹線道路
- 地域間幹線道路
- 地区幹線道路
- 河川・水路等
- 公共・公益施設等
- 学校教育施設
- 鉄道・駅
- 主要な橋

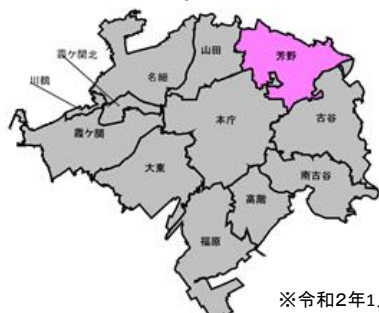
<都市構造等>

- 都市的活動核
- 歴史的観光拠点(歴史・水・緑核)
- 生活核
- 水と緑の拠点
- 伝統的建造物群保存地区

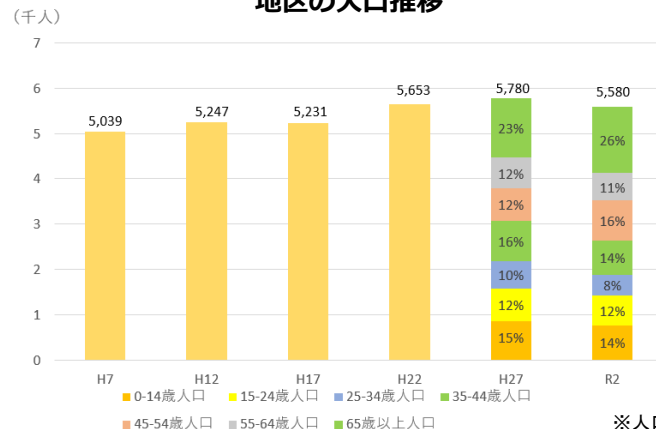
※道路整備構想路線については、具体的な路線ルート・位置等を規定するものではありません。

基本データ

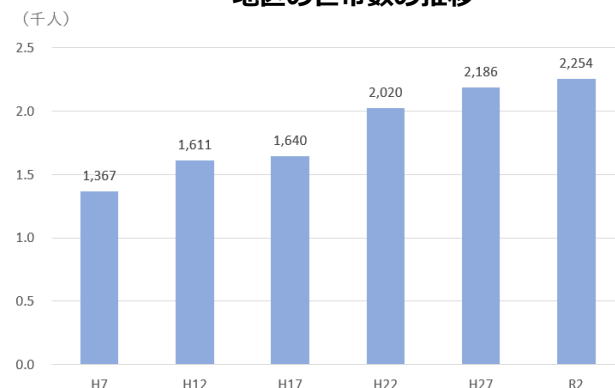
- 面積 約1020.0 ha
- 人口 5,580人
- 世帯数 2,254世帯



地区の人口推移



地区の世帯数の推移



※人口推移のH22以前は国勢調査から作成、それ以外は住民基本台帳から作成、各年1月時点

まちづくりの動向と課題

◆田園環境と産業系土地利用の調和

- ・古くからの田園集落地であり、地区面積の約9割を市街化調整区域が占めている。
- ・昭和55年に川越工業団地が造成されて以降、本市の産業を支える工業集積拠点の一つとなり、近年では平成21年3月川越第二産業団地として拡張整備を完了しているが、今後もさらなる拡充が期待される。
- ・幹線道路網の整備が不十分であり、大型車両の工業団地へのアクセス性の向上や集落地内への進入を減らすため、(仮称)川越東環状線の整備を進めている。

◆高齢化への対応と生活圏の維持

- ・地区全体の人口減少や高齢化が進む中、交通手段の確保を通じて、既存集落における持続性のある生活圏の維持が必要である。

◆伊佐沼、川越運動公園の水と緑の拠点整備・拡充

- ・快適かつ安全に楽しく利用できる広域的レクリエーション拠点として整備を進める必要がある。

まちづくりのキャッチフレーズ

心豊かなふれあいと
活力のある田園都市 芳野

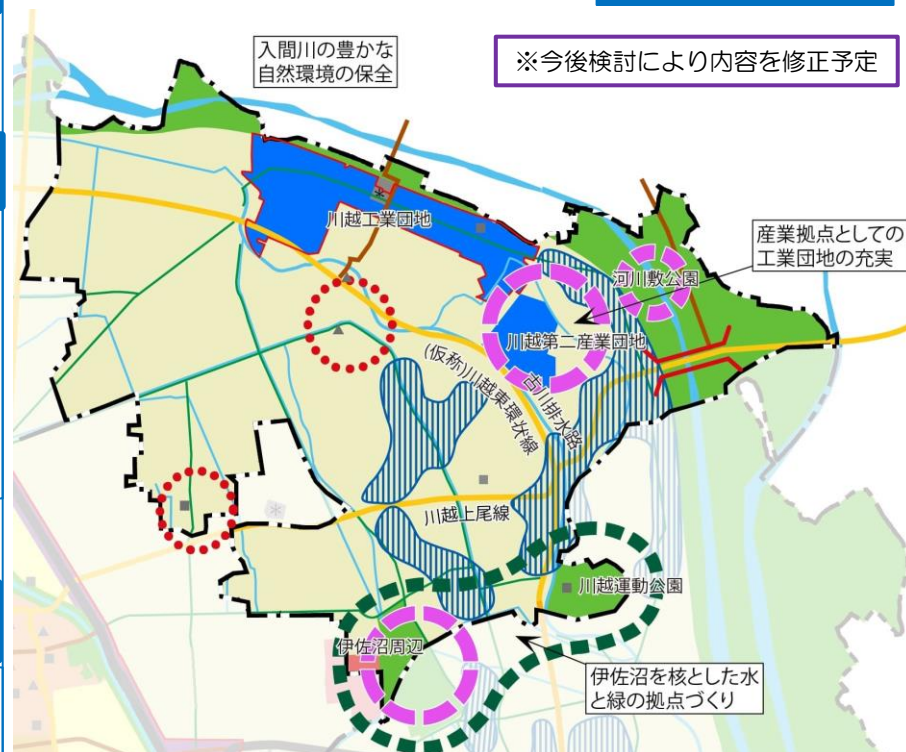
まちづくりの目標

- ◆水と緑に囲まれた広大な田園が広がる川越のふるさととして、のどかでうるおいのあるまちにしよう
- ◆川越市の産業・市民生活の活力拠点となるまちにしよう
- ◆人々の心の豊かさと触れ合いの中で、のんびりと快適に生活できるまちにしよう

まちづくりの方向性(案)

- ◇産業拠点として、新たな企業誘致や既存企業の工場等の拡充のため、周辺環境との調和に配慮し、適切な手法による土地利用を検討する
- ◇(仮称)川越東環状線整備による工業団地へのアクセス性の向上と集落における安全性向上を図る
- ◇安全確保のため、川越上尾線の歩道整備を着実に推進する
- ◇地域の実情に応じた適切な交通手段の確保を図るとともに、持続性のある生活圏を維持する
- ◇伊佐沼を核とした水と緑の拠点づくり進め、交流人口の増加など、地域の活性化を図る

まちづくりの方針図



<土地利用>

- 商業・業務地
- 工業地
- 農地・樹林地・集落地
- 公園・緑地
- 都市施設
- 市街化区域・市街化調整区域界

<道路・水路・資源等>

- 都市間幹線道路
- 地域間幹線道路
- 地区幹線道路
- 河川・水路等
- 公共・公益施設等
- 学校教育施設
- 主要な橋

<都市構造等>

- 周辺環境や地区特性に応じた新たな拠点整備
- 地区の中心的なエリア
- 水と緑の拠点
- 景観的に特徴のある旧集落

※道路整備構想路線については、具体的な路線ルート・位置等を規定するものではありません。

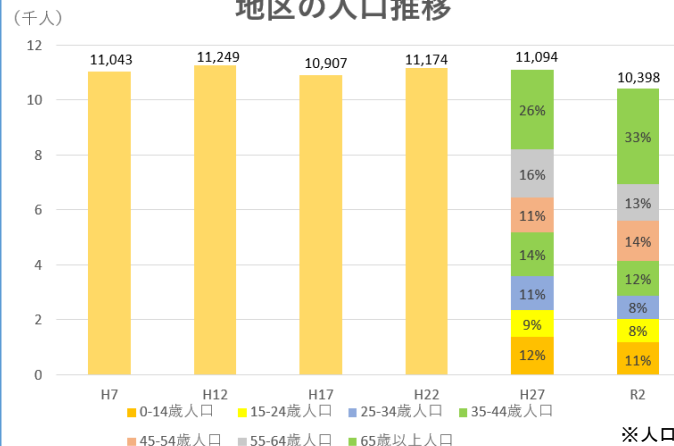
基本データ

- 面積 約1,207.4 ha
- 人口 10,398人
- 世帯数 4,436世帯

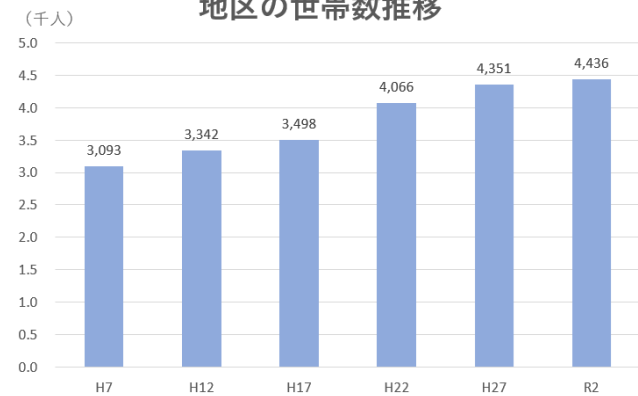


※令和2年1月時点

地区の人口推移



地区の世帯数推移



※人口推移のH22以前は国勢調査から作成、それ以外は住民基本台帳から作成、各年1月時点

まちづくりの動向と課題

◆豊かな田園風景と調和した安心して暮らせる生活環境の形成

- ・ほぼ全域を占める市街化調整区域には豊かな農村地域が広がっており、その約7割（うち想定浸水深3m以上は約4割）が浸水想定区域に指定されている。
- ・古くからの田園住宅地が広がっているほか、昭和60年には「川越グリーンパーク」が建設されたことにより住宅地が整備された。

◆高齢化への対応と生活圏の維持

- ・高齢化率が他地区と比較して高く、超高齢社会を見据えた交通手段の確保を通じて、既存集落における持続性のある生活圏の維持が必要である。

◆南古谷駅北側の土地利用転換

- ・平成30年に南古谷駅南北駅前広場、令和2年には南古谷伊佐沼線（一部）が事業認可されるとともに、自由通路（及び駅橋上等）設置による北口開設など、駅周辺の整備が進められており、今後駅周辺の利便性の向上や、地域生活拠点（地域核）として都市機能の充実が期待される。

◆道路網の整備と地域交通の利便性・安全性の向上

- ・地区の主要な幹線道路は国道16号であり、渋滞解消、生活道路への交通流入軽減、環状（南北）方向の移動利便性向上が課題である。また沿道においては、周辺に配慮した土地利用が期待される。

◆伊佐沼、川越運動公園の水と緑の拠点整備・拡充

- ・快適かつ安全に楽しく利用できる広域的レクリエーション拠点として整備を進める必要がある。

古谷地区②(まちづくりの方向性)

区分	本庁	芳野	古谷	南古谷	高階	福原
	大東	霞ヶ関	川鶴	霞ヶ関北	名細	山田

まちづくりのキャッチフレーズ

水辺と田園風景に調和した、
快適なまち 古谷

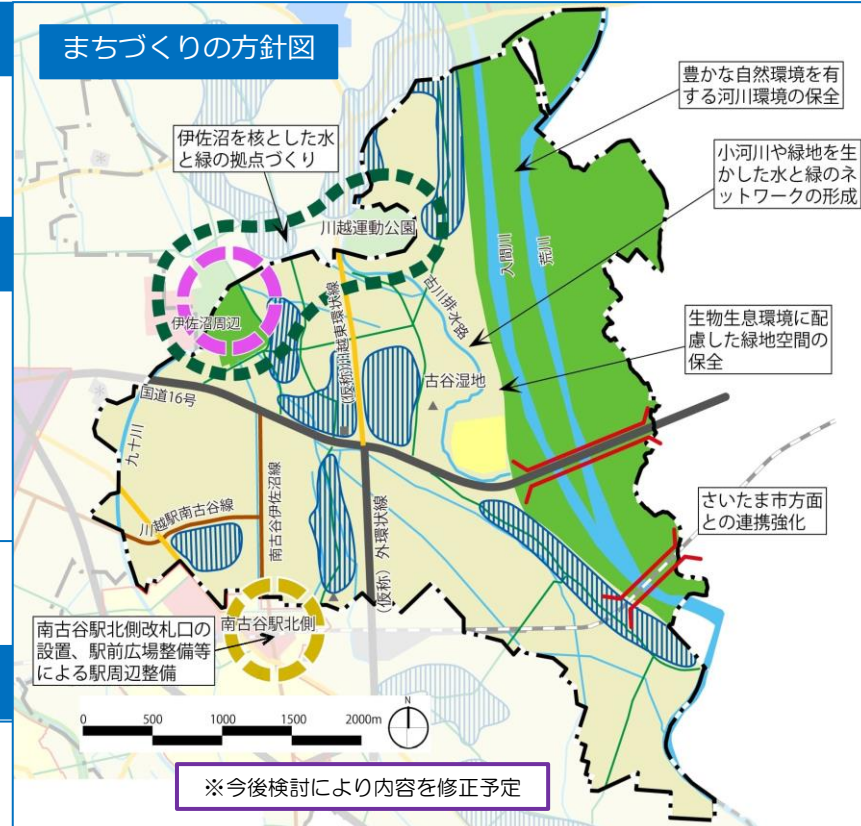
まちづくりの目標

- ◆まとまりのある田園と豊かな自然に囲まれたゆとりと
おいのあるまちにしよう
- ◆誰もが生き生きと安心して暮らせる快適なまちにしよう
- ◆地域の快適・便利な生活を支えるため、地区の中心づく
りを進めよう

まちづくりの方向性 (案)

- ◇南古谷駅周辺(地域核)においては、商業レクリ
エーション施設の魅力を生かすとともに、生活利便
施設の維持・充実により、健康で豊かな暮らしを求
める多世代の誘導を図る
- ◇(仮称)川越東環状線整備による交通円滑化等、南古谷伊佐沼線
の整備による伊佐沼周辺等へのアクセス性向上等を図る
- ◇地域の実情に応じた適切な交通手段の確保を図るとともに、持続
性のある生活圏を維持する
- ◇国道16号沿道の立地特性を生かした適切な利用の誘導を図る
- ◇伊佐沼を核とした水と緑の拠点づくり進め、交流人口の増加など、
地域の活性化を図る
- ◇関係機関と連携した総合的な治水対策を推進する

まちづくりの方針図



<土地利用>

- 住宅地
- 農地・樹林地・集落地
- 公園・緑地

<都市構造等>

- 周辺環境や地区特性に応じた新たな拠点整備
- 地域核
- 水と緑の拠点
- 景観的に特徴のある旧集落

<道路・水路・資源等>

- 広域幹線道路
- 都市間幹線道路
- 地域間幹線道路
- 地区幹線道路
- 河川・水路等
- 公共・公益施設等
- 学校教育施設
- 鉄道・駅
- 主要な橋

※道路整備構想路線については、具体的な路線ルート・位置等を規定するものではありません。

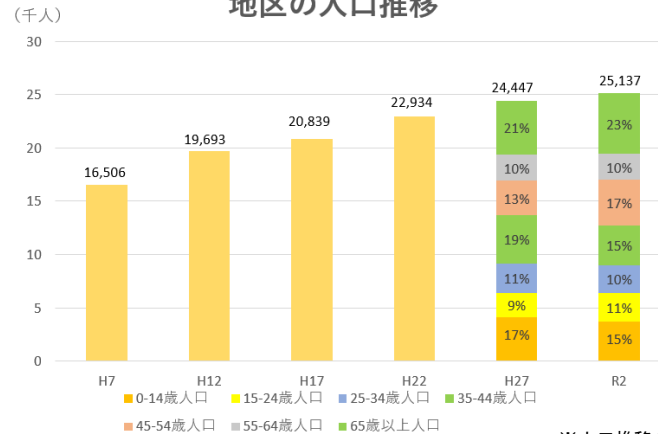
基本データ

- 面積 約859.2 ha
- 人口 25,137人
- 世帯数 10,581世帯



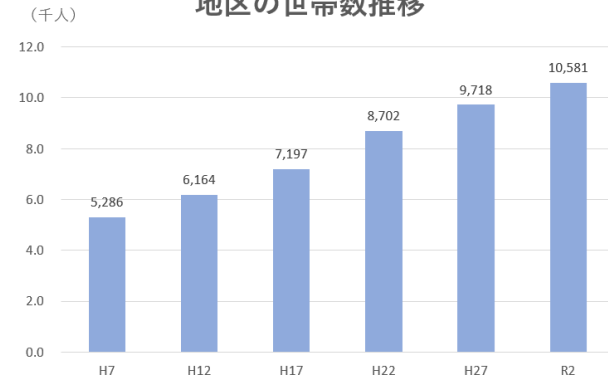
※令和2年1月時点

地区の人口推移



※人口推移のH22以前は国勢調査から作成、それ以外は住民基本台帳から作成、各年1月時点

地区の世帯数推移



まちづくりの動向と課題

◆豊かな田園景観と安心して暮らせる生活環境の充実

- ・地区面積の約8割を占める市街化調整区域は豊かな農村地域となっている。また、ほぼ全域が想定浸水深3m以上の浸水想定区域に指定されている。
- ・昭和40年代以降進められてきた民間開発や公的開発・土地区画整理事業などにより、住宅地としての基盤が整備され市街化が進んだほか、泉町の工場跡地の商業レクリエーション施設開発により地域の生活利便性が向上した。
- ・人口は微増し、高齢化の進行が他地区と比較して遅い。これらの特徴を踏まえ、さらなる魅力あるまちづくりが期待される。

◆南古谷駅周辺の整備

- ・平成30年に南古谷駅南北駅前広場が事業認可されるとともに、自由通路（及び駅橋上等）設置など、駅周辺の整備が進められており、今後駅周辺の利便性の向上や、地域生活拠点（地域核）として都市機能の充実が期待される。

◆快適で暮らしやすい住宅地の形成

- ・並木・並木西町・藤木地区の土地区画整理事業が完了し、良好な住宅地環境が整備されている。また、木野目・南田島地区の道路後退行政指導区域では、地域住民との協働により基盤整備を進めている。

◆骨格となる道路網の整備

- ・地区の主要な幹線道路は川越志木線（国道254号）のみであり、渋滞解消、生活道路への交通流入軽減、東西方向の移動利便性向上等が課題である。また沿道においては、周辺に配慮した土地利用が期待される。

南古谷地区②(まちづくりの方向性)

区分	本庁	芳野	古谷	南古谷	高階	福原
	大東	霞ヶ関	川鶴	霞ヶ関北	名細	山田

まちづくりのキャッチフレーズ

水と緑に恵まれた夢ふくらむまち 南古谷

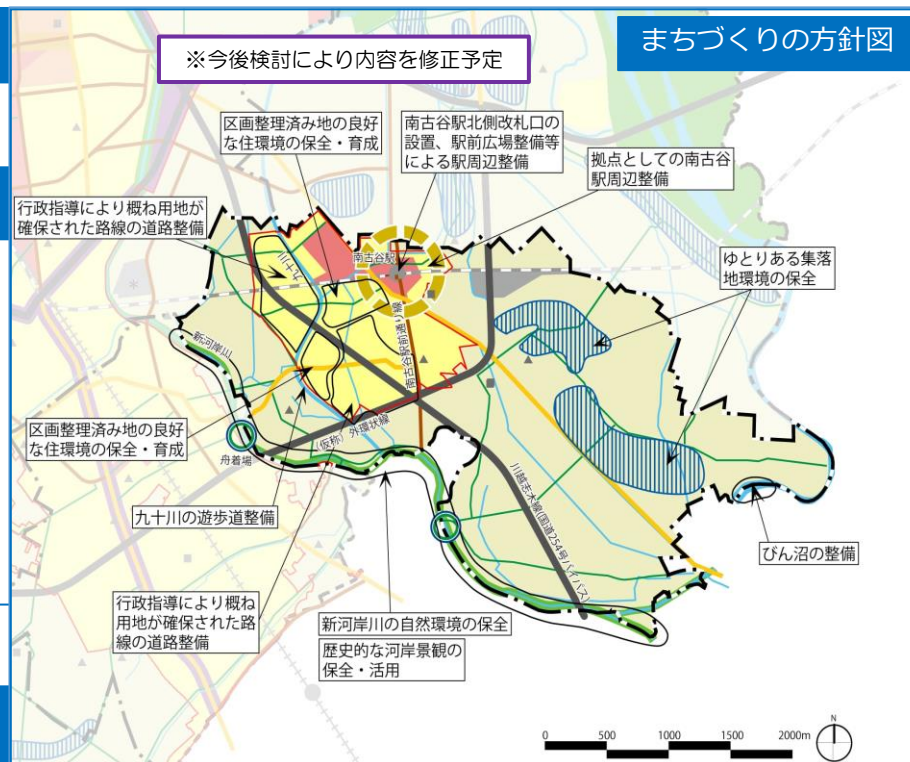
まちづくりの目標

- ◆安心して暮らせる住環境が整備された、快適でぬくもりのあるまちづくりを進めよう
- ◆川越市の東の玄関として、新たに発展するまちを目指そう
- ◆若者の集まる学園のまちとして、活気あるまちづくりを進めよう
- ◆水と緑の豊かな自然環境に囲まれた、歴史・文化の香るまちづくりを進めよう

まちづくりの方向性 (案)

- ◇南古谷駅周辺（地域核）においては、商業レクリエーション施設の魅力を生かすとともに、生活利便施設の維持・充実により、健康で豊かな暮らしを求める多世代の誘導を図る
- ◇基盤整備が完了した地域の良い住環境については、地域の意向を踏まえながら、地区計画等の導入を検討し、維持を図る
- ◇（仮称）外環状線整備について検討し、段階的に整備を推進する
- ◇道路後退行政指導区域において、引き続き住民との協働のもと、道路拡幅整備を着実に推進する
- ◇川越志木線沿道の立地特性を生かした適切な利用の誘導を図る
- ◇地域の実情に応じた適切な交通手段の確保を検討する
- ◇関係機関と連携した総合的な治水対策を推進する

まちづくりの方針図



<土地利用>

- 住宅地
- 商業・業務地
- 農地・樹林地・集落地
- 公園・緑地
- 都市施設
- 市街化区域・市街化調整区域界

<都市構造等>

- 地域核
- 景観的に特徴のある旧集落
- 面影を残す河岸跡

<道路・水路・資源等>

- 広域幹線道路
- 都市間幹線道路
- 地域間幹線道路
- 地区幹線道路
- 河川・水路等
- 公共・公益施設等
- 学校教育施設
- 鉄道・駅
- 主要な橋

※道路整備構想路線については、具体的な路線ルート・位置等を規定するものではありません。

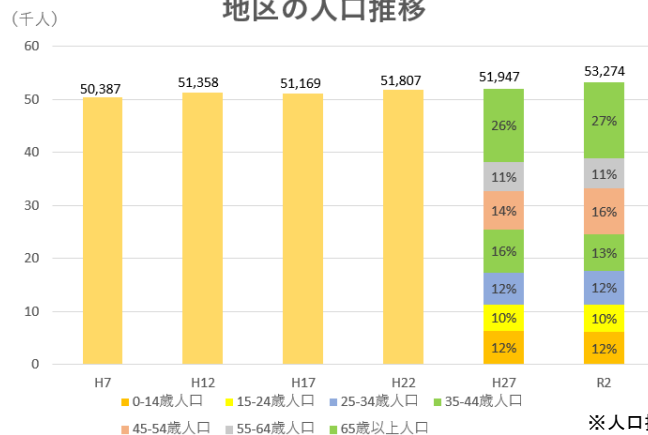
基本データ

- 面積 約618.8 ha
- 人口 53,274人
- 世帯数 25,431世帯

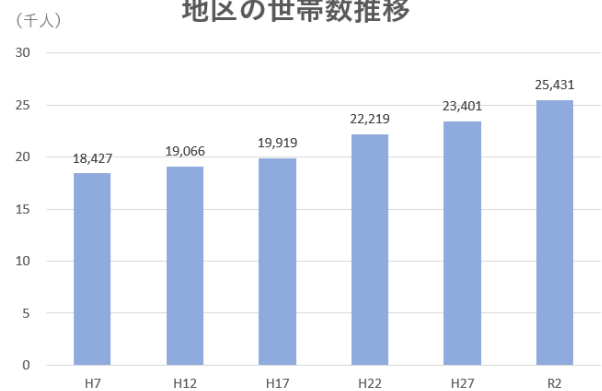


※令和2年1月時点

地区の人口推移



地区の世帯数推移



※人口推移のH22以前は国勢調査から作成、それ以外は住民基本台帳から作成、各年1月時点

まちづくりの動向・課題

◆市街地環境の改善

- ・地区面積の約7割が市街化区域であり、人口密度は地区平均で約86人/haと人口密度の高い市街地となっている。それらの多く(特に寺尾、砂、新河岸駅周辺)は基盤整備がなされないまま市街化が進行したものであり、特に防災上の観点からも市街地環境の改善が必要である。
- ・人口は微増し、高齢化の進行が他地区と比較して遅い。これらの特徴を踏まえ、さらなる魅力あるまちづくりが期待される。

◆新河岸駅周辺地区の整備

- ・昭和42年に事業決定したものの進捗が課題であった高階土地区画整理事業(第2、3工区)から、地区計画等(高階まちづくりプラン)への転換により、周辺環境と調和した良好な市街地の形成と安全で安心なまちづくりを進めている。平成30年7月には、川越の南の玄関口となる新河岸駅の東西自由通路および橋上駅舎、駅前広場が完成し、地域生活拠点(地域核)としての商業施設の充実等、都市機能の集積を進めているほか、近年では地域住民や商店会などを主体とした実行委員会が発足し、Shingashiめぐり・わくわくフェスティバルや花植え体験イベント、まちづくりワークショップを実施するなど、住民主体によるまちづくりに向けた基盤づくりを行い、地域の魅力創造や認知度向上に取り組んでいる。

◆地区を囲む豊かな自然環境

- ・市街化区域内の生産緑地地区など、身近な自然が多く残されている。
- ・新河岸川舟運の舟着き場など、歴史と自然が一体となった河川景観の保全・活用を図っている。

まちづくりのキャッチフレーズ

人に優しい安全なまち 高階

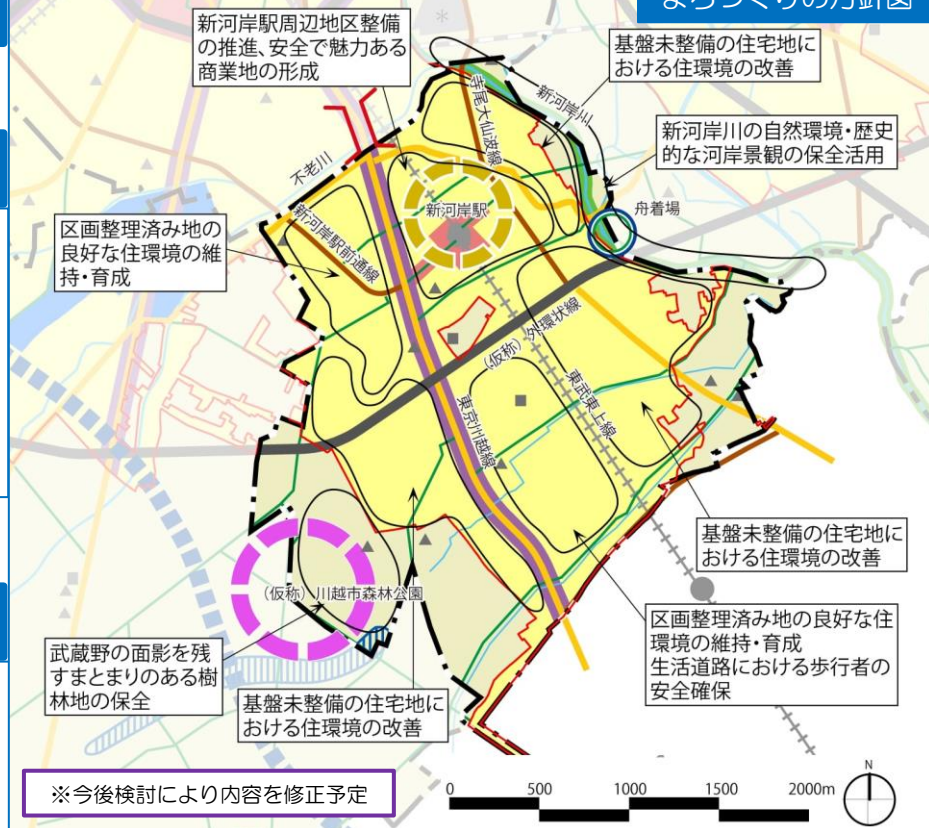
まちづくりの目標

- ◆安全・快適な生活環境の整った、豊かな暮らしのまちにしよう
- ◆美しい町並みを持った、生き生きと活気あふれる暮らしのまちにしよう
- ◆歩行者優先の道路が整備され、子供から高齢者まで、みんなが楽しく散歩できるまちにしよう

まちづくりの方向性(案)

- ◇新河岸駅周辺(地域核)においては、医療の充実と生活利便施設を維持・充実により、さらなる暮らしやすさの創出を図り、子育て世代を誘導する
- ◇基盤整備が不十分または完了した住宅地について、地域の意向を踏まえながら、地区計画等の導入を検討し、それぞれ住環境改善または維持を図る
- ◇東京川越線沿道の立地特性を生かした適切な利用の誘導を図る
- ◇都市計画道路等幹線道路の整備を必要に応じて検討し、段階的に整備を推進する
- ◇地域の実情に応じた適切な交通手段の確保を検討する
- ◇生産緑地地区や新河岸川の自然・歴史的環境を保全・活用し、武蔵野の面影のある樹林地の保全を図る
- ◇関係機関と連携した総合的な治水対策を推進する

まちづくりの方針図



※今後検討により内容を修正予定

<土地利用>	<道路・水路・資源等>
 住宅地	 広域幹線道路
 商業・業務地	 都市間幹線道路
 沿道型利用地	 地域間幹線道路
 農地・樹林地・集落地	 地区幹線道路
 公園・緑地	 河川・水路等
 市街化区域・市街化調整区域	 公共・公益施設等
<都市構造等>	 学校教育施設
 周辺環境や地区特性に応じた新たな拠点整備	 鉄道・駅
 地域核	 主要な橋
 面影を残す河岸跡	

※道路整備構想路線については、具体的な路線ルート・位置等を規定するものではありません。

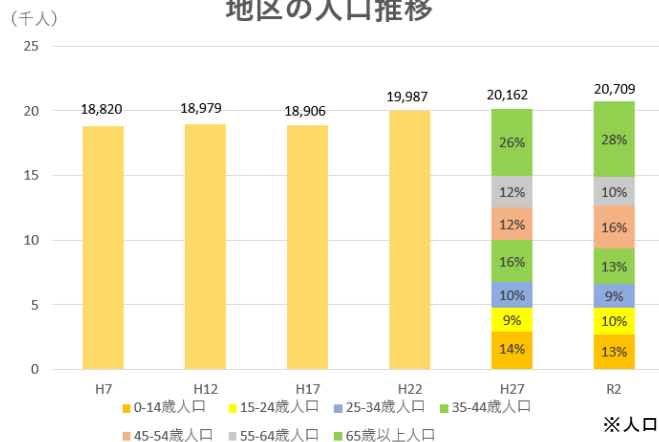
基本データ

- 面積 約1200.1 ha
- 人口 20,709人
- 世帯数 8,704世帯



※令和2年1月時点

地区の人口推移



地区の世帯数推移



※人口推移のH22以前は国勢調査から作成、それ以外は住民基本台帳から作成、各年1月時点

まちづくりの動向・課題

◆安全で暮らしやすい市街地環境の維持・形成

- ・地区の約85%は市街化調整区域であり、大半は農地や樹林地となっている。
- ・市街地は主に住宅や工場として利用されているが、高度成長期の急激な人口増加に伴って形成され、基盤整備が行われていない地域もある。

◆高齢化への対応と生活圏の維持

- ・人口は微増傾向であるが、今後地区全体の人口減少や高齢化が進むと予測される中、交通手段の確保を通じて、既存集落における持続性のある生活圏の維持が必要である。

◆道路網の整備と地域交通の利便性・安全性の向上

- ・地区の主要な幹線道路は川越所沢線であり、渋滞解消、生活道路への交通流入軽減、環状（東西）方向の移動利便性向上が課題である。また沿道においては、周辺に配慮した土地利用が期待される。

◆豊かな自然環境とその適正な保全

- ・「（仮称）川越市森林公園計画地」周辺には武蔵野の面影を残す樹林地が多く残されている。また、地区内には次世代に継承すべき「武蔵野の落ち葉堆肥農法」を続ける地域があり、この農法は日本農業遺産（平成29年）、世界農業遺産（令和5年）にそれぞれ認定されている。

まちづくりのキャッチフレーズ

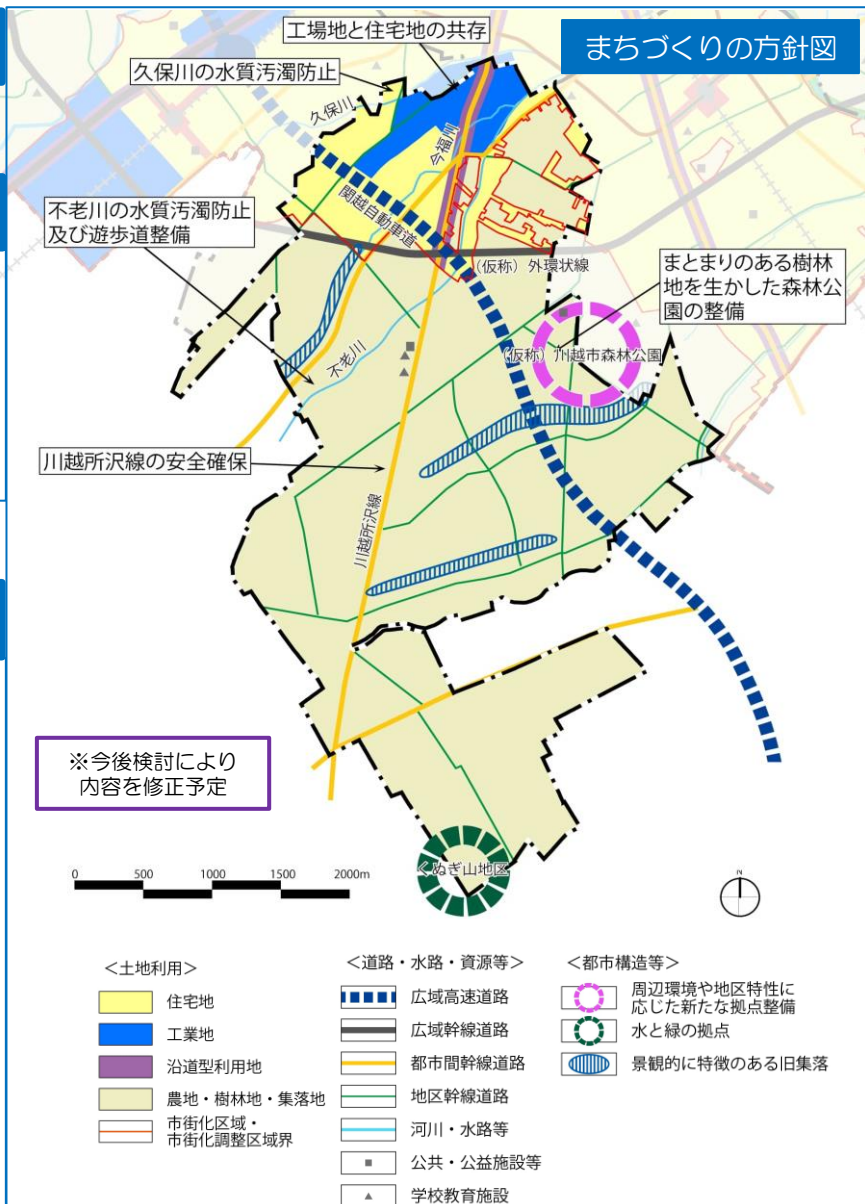
豊かな畑と美しい林の心落ち着くまち 福原

まちづくりの目標

- ◆美しい自然環境を維持し続ける活力ある農業のまちにしよう
- ◆幹線道路と生活道路が適切にネットワークされたまちにしよう
- ◆快適な生活ができる住みよい便利なまちにしよう

まちづくりの方向性(案)

- ◇北部の住宅地と工場地が共存する地域においては、地域の意向を踏まえて、地区計画等の導入を検討し、住・工が調和した良好な環境の維持を図る
- ◇(仮称)外環状線整備について検討し、段階的に整備を推進する
- ◇既存道路の拡幅等による環状(東西)方向の移動利便性向上、安全性向上を図る
- ◇地域の実情に応じた適切な交通手段の確保を図るとともに、持続性のある生活圏を維持する
- ◇川越所沢線沿道の立地特性を生かした適切な利用の誘導を図る
- ◇(仮称)川越市森林公園の整備方法、くぬぎ山地区の樹林地の保全方法について検討する



※道路整備構想路線については、具体的な路線ルート・位置等を規定するものではありません。

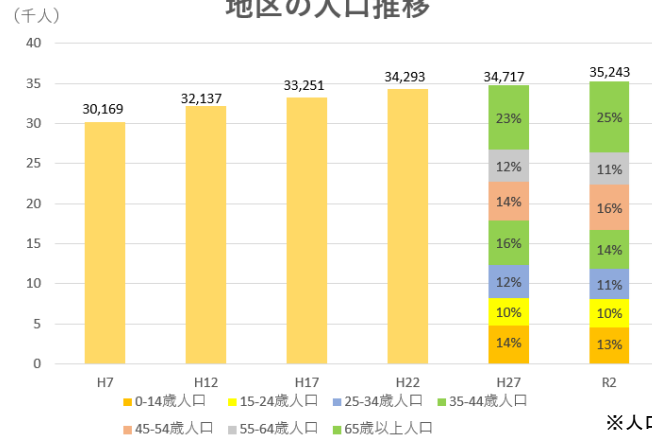
基本データ

- 面積 約1138.8 ha
- 人口 35,243人
- 世帯数 15,605世帯

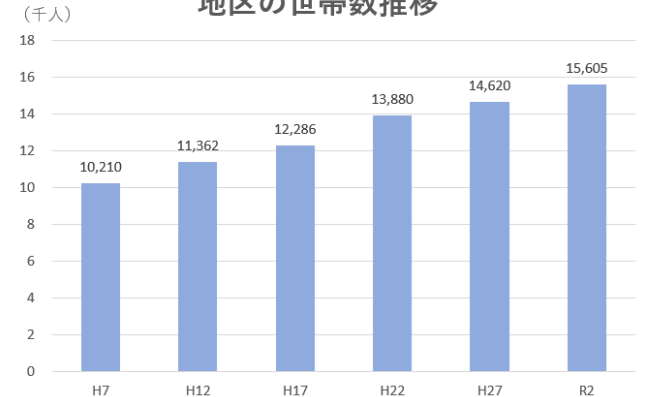


※令和2年1月時点

地区の人口推移



地区の世帯数推移



※人口推移のH22以前は国勢調査から作成、それ以外は住民基本台帳から作成、各年1月時点

まちづくりの動向・課題

◆豊かな自然環境と安全で暮らしやすい市街地環境の形成

- ・市街地が南大塚駅や本市の産業を支える拠点である川越狭山工業団地の周辺に広がっている一方、地区の約6割は豊かな田園集落が広がる市街化調整区域である。
- ・駅周辺以外では基盤整備が行われないうちに宅地化が進行している地域があるほか、川越IC周辺や国道16号沿道は、住宅・商業・工業が混在している地域がある。
- ・人口は微増し、高齢化の進行が他地区と比較して遅い。これらの特徴を踏まえ、さらなる魅力あるまちづくりが期待される。

◆地域核として南大塚駅の都市機能の充実

- ・南大塚駅周辺には商業地が形成されているが、今後も地域生活拠点（地域核）として、さらなる利便性の向上や活性化が期待される。

◆道路網の整備と地域交通の利便性・安全性の向上

- ・地区の主要な幹線道路は国道16号であり、渋滞解消、生活道路への交通流入を軽減、環状方向の移動利便性向上が課題である。また沿道においては、周辺に配慮した土地利用が期待される。

◆豊かな水と緑の維持・改善及び活用

- ・入間川、赤間川など河川が流れ、川越公園（川越水上公園）は水と緑の拠点として親しまれている。

◆新たな産業拠点

- ・川越増形地区産業団地(令和6年操業予定)については、新たな拠点として、周辺環境に配慮しながら産業集積が期待される。

まちづくりのキャッチフレーズ

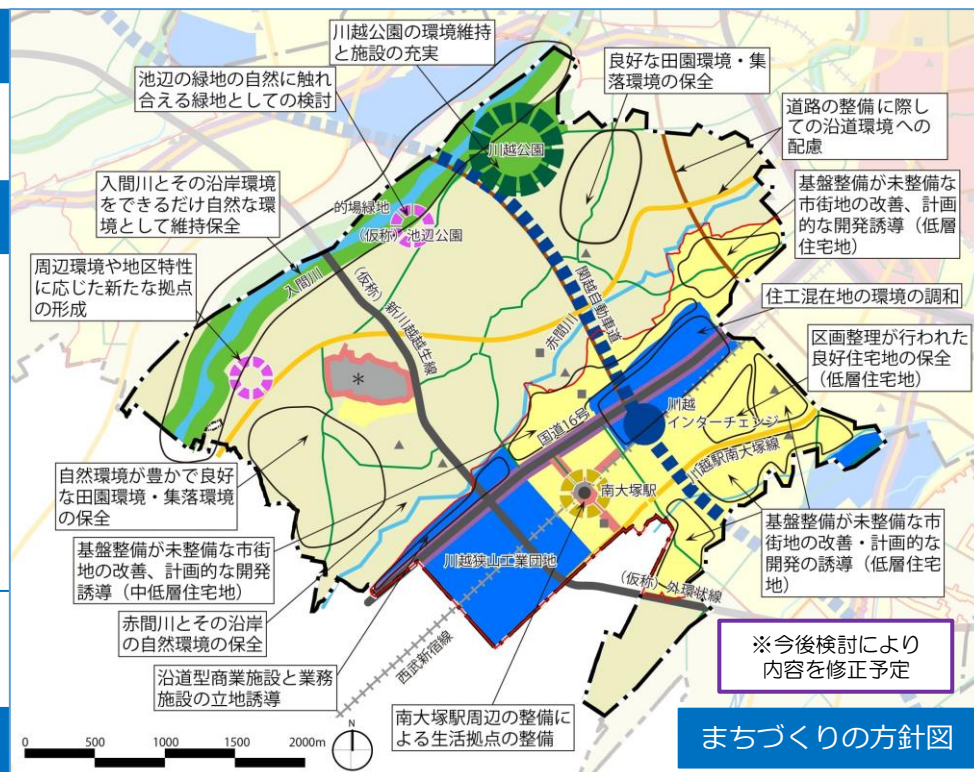
文教と田園と花の香 夢が広がる活き活き 大東

まちづくりの目標

- ◆水と緑や花に囲まれた自然の豊かなまちにしよう
- ◆農業と工業、住宅地それぞれに活力があり、バランス良く調和したまちにしよう
- ◆南大塚駅とその周辺を核とした賑わいと文化のあるまちにしよう
- ◆ボランティア活動やコミュニティが豊かなまちにしよう

まちづくりの方向性 (案)

- ◇南大塚駅周辺(地域核)においては、生活利便施設の維持や新たな賑わいの創出を図ることにより、生産年齢世代や子育て世代の誘導を図る
- ◇都市基盤整備が不十分な住宅地または住・商・工の共存する地域においては、地域の意向を踏まえながら、地区計画等の導入を検討し、それぞれ住環境改善や住・商・工が調和した環境の維持を図る
- ◇(仮称)新川越越生線整備について周辺環境に配慮し、整備を推進する
- ◇地域の実情に応じた適切な交通手段の確保を検討する
- ◇川越公園(川越水上公園)の快適な環境は維持しつつ、必要に応じて施設の充実など新たな活用を検討する



※今後検討により内容を修正予定

まちづくりの方針図

<土地利用>

- 住宅地
- 商業・業務地
- 沿道型利用地
- 農地・樹林地・集落地
- 公園・緑地
- 市街化区域・市街化調整区域

<都市構造等>

- 周辺環境や地区特性に応じた新たな拠点整備
- 地域核
- 面影を残す河岸跡

<道路・水路・資源等>

- 広域幹線道路
- 都市間幹線道路
- 地域間幹線道路
- 地区幹線道路
- 河川・水路等
- 公共・公益施設等
- 学校教育施設
- 鉄道・駅
- 主要な橋

※道路整備構想路線については、具体的な路線ルート・位置等を規定するものではありません。

霞ヶ関地区①(まちづくりの動向・課題)

区分	本庁 大東	芳野 霞ヶ関	古谷 川鶴	南古谷 霞ヶ関北	高階 名細	福原 山田
----	----------	-----------	----------	-------------	----------	----------

基本データ

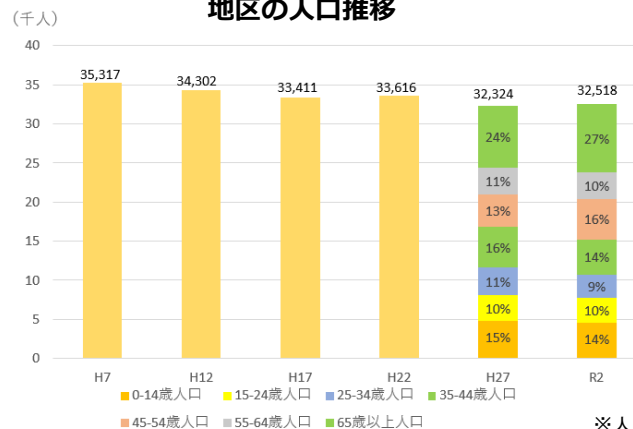
※H22までは川鶴地区の一部を含む

- 面積 約1,129.9 ha
- 人口 32,518人
- 世帯数 14,125世帯

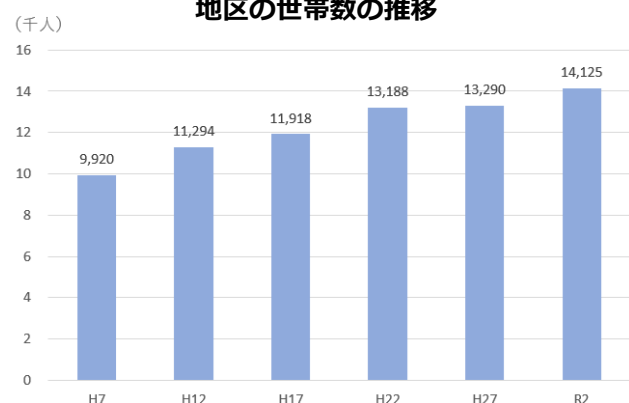


※令和2年1月時点

地区の人口推移



地区の世帯数の推移



※人口推移のH22以前は国勢調査から作成、それ以外は住民基本台帳から作成、各年1月時点

まちづくりの動向・課題

◆良好な住環境の保全・形成及び地区内の適切な土地利用

- ・地区の市街地は計画的にまとまって開発された良好な住宅地がある一方、小規模な開発により無秩序に市街化が進み、住環境の問題や防災上の課題を抱えている地域がある。
- ・地区の東部には的場工業集約地があり、住宅と工業等の混在が見られる。
- ・圏央鶴ヶ島IC周辺においては、新たな産業拠点として適切な土地利用が期待される。

◆高齢化への対応と生活圏の維持

- ・今後地区全体の人口減少や高齢化が進むと予測される中、交通手段の確保を通じて、既存集落における持続性のある生活圏の維持が必要である。

◆地区の中心的な拠点整備

- ・笠幡駅については平成31年2月に駅前広場及びアクセス道路の供用を開始した。笠幡駅、的場駅の駅周辺について生活拠点（生活核）としての魅力づくりによる地区の活性化を進める必要がある。

◆幹線道路の渋滞解消、安全で利便性の高い交通環境の整備

- ・地区の幹線道路である県道川越日高線・川越越生線における渋滞解消、その他生活道路への交通流入軽減が課題である。的場駅はアクセス道路が未整備で、周辺の住宅地や集落地においても狭い道路や行き止まり道路が多くみられるため改善が必要である。
- ・市西部の玄関口として、周辺都市や圏央鶴ヶ島ICへのアクセス道路の強化が必要である。

霞ヶ関地区②(まちづくりの方向性)

区分	本庁	芳野	古谷	南古谷	高階	福原
	大東	霞ヶ関	川鶴	霞ヶ関北	名細	山田

まちづくりのキャッチフレーズ

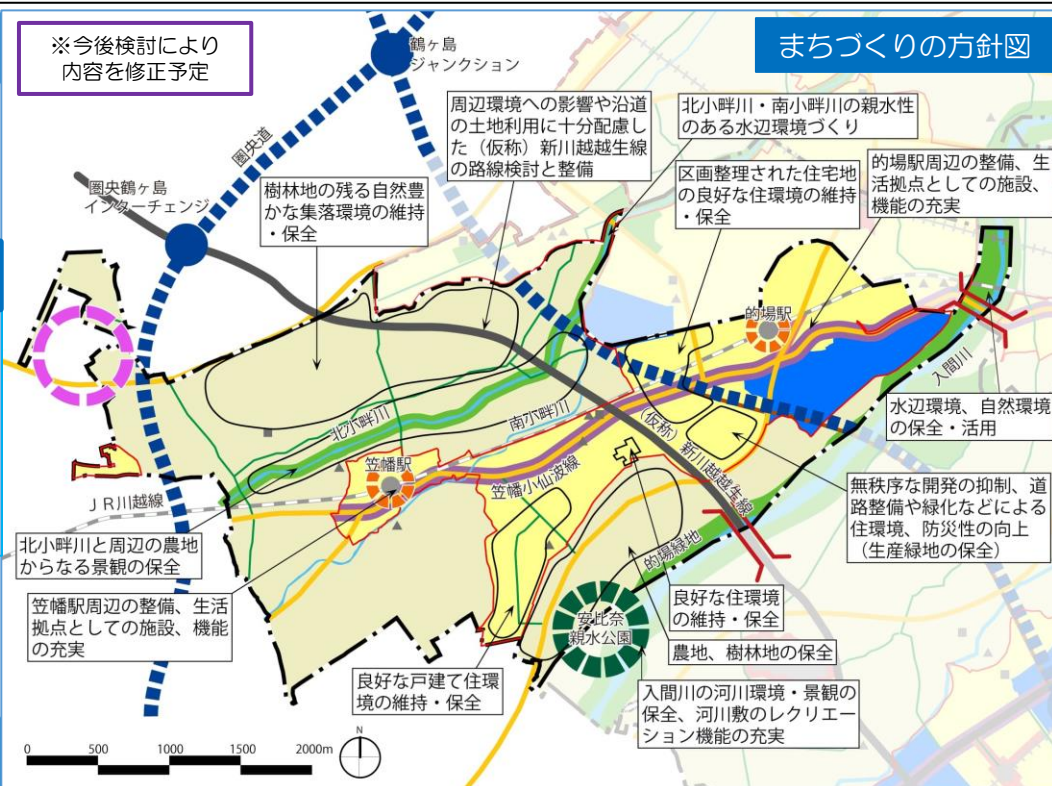
自然と人 活力あるまち 霞ヶ関

まちづくりの目標

- ◆ 豊かな自然と対話をしながらまちづくりを進めよう
- ◆ 安心して暮らせるゆとりあるまちにしよう
- ◆ 生き生きとしたふれあいあふれるまちにしよう

まちづくりの方向性 (案)

- ◇ 都市基盤整備が不十分な住宅地または基盤整備が完了した住宅地について、地域の意向を踏まえながら、地区計画等の導入を検討し、それぞれ住環境改善または維持を図るとともに、広範囲に低層住宅地が広がる地域においては 身近な買い物環境形成を誘導する
- ◇ 笠幡駅、的場駅周辺においては、地域コミュニティを育む拠点となる環境づくりを進める
- ◇ (仮称) 新川越越生線整備について、周辺環境に配慮し、整備を推進する
- ◇ 地域の実情に応じた適切な交通手段の確保を検討する
- ◇ 圏央鶴ヶ島IC周辺における産業拠点の形成を推進する



<土地利用>

- 住宅地
- 商業・業務地
- 工業地
- 沿道型利用地
- 農地・樹林地・集落地
- 公園・緑地
- 市街化区域・市街化調整区域界

<都市構造等>

- 周辺環境や地区特性に応じた新たな拠点整備
- 生活核
- 水と緑の拠点

<道路・水路・資源等>

- 広域高速道路
- 広域幹線道路
- 都市間幹線道路
- 地域間幹線道路
- 地区幹線道路
- 河川・水路等
- 公共・公益施設等
- 学校教育施設
- 鉄道・駅
- 主要な橋

※道路整備構想路線については、具体的な路線ルート・位置等を既定するものではありません

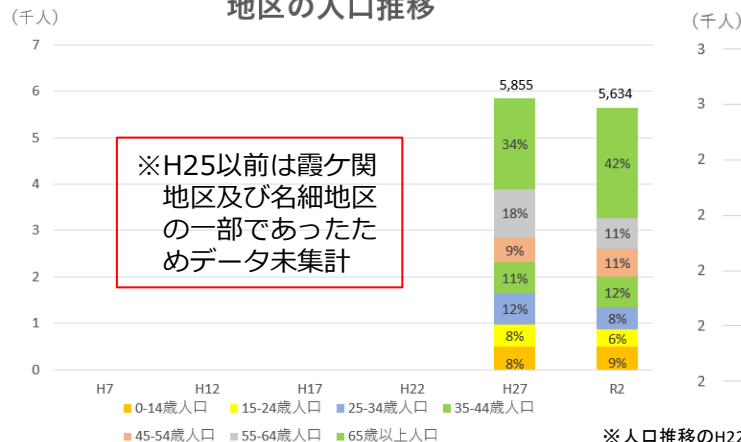
基本データ

- 面積 約68.9 ha
- 人口 5,634人
- 世帯数 2,568世帯

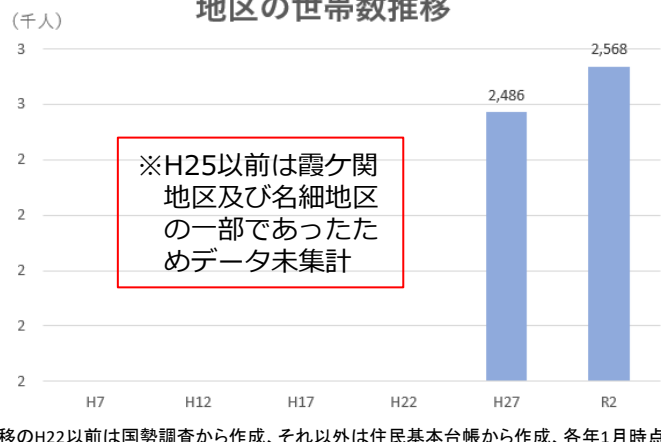


※令和2年1月時点

地区の人口推移



地区の世帯数推移



※人口推移のH22以前は国勢調査から作成、それ以外は住民基本台帳から作成、各年1月時点

まちづくりの動向・課題

※平成26（2014）年川越市市民センター条例が施行され、川鶴地区が誕生したため、今回新たに地域別構想を策定する。

◆基盤整備された住宅地の良好な住環境

- ・昭和50年代に日本住宅公団（当時）により、鶴ヶ島市側と合わせて川越・鶴ヶ島土地区画整理事業が行われ、主に低層の戸建て住宅と中層の共同住宅からなるゆとりある住宅地となっている。
- ・地区内には笠幡公園をはじめとした緑豊かな公園が多い。

◆公共交通の充実

- ・鶴ヶ島駅への路線バスは本数も充実しており交通利便性は高い。

◆高齢化の状況

- ・高齢化率が他地区と比較して高い。

まちづくりのキャッチフレーズ(案)

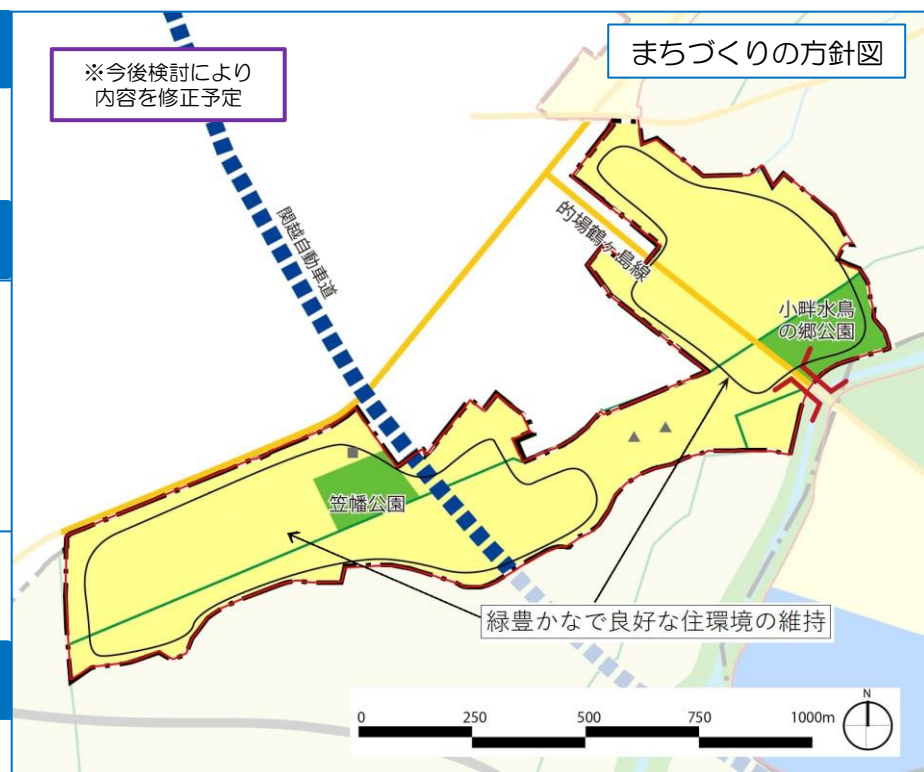
いきいきと暮らせる 緑のまち 川鶴

まちづくりの目標(案)

- ◆快適な生活ができる住みよい便利なまちにしよう
- ◆緑やうるおいのあるまちにしよう

まちづくりの方向性(案)

- ◇基盤整備された住宅地の良好な住環境については、地域の意向を踏まえながら、地区計画等の導入を検討し維持を図る
- ◇引き続き笠幡公園や小畔水鳥の郷公園等の緑を生かした、ゆとりとうるおいのある生活環境を形成する
- ◇高齢化を見据え、交通利便性を維持する



<土地利用>

- 住宅地
- 公園・緑地
- 市街化区域・市街化調整区域界

<道路・水路・資源等>

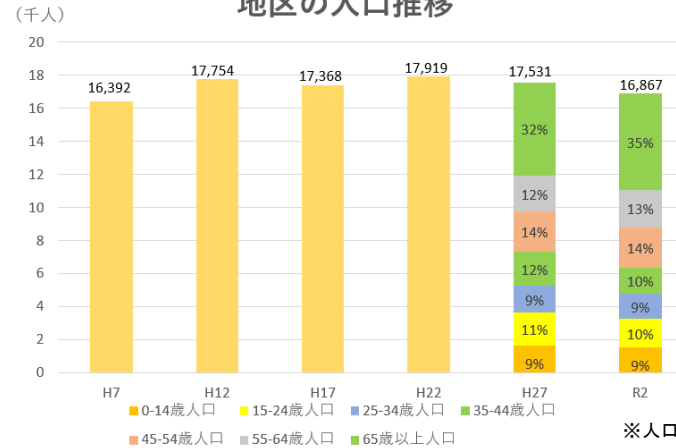
- 広域高速道路
- 都市間幹線道路
- 地区幹線道路
- 公共・公益施設等
- 学校教育施設
- 主要な橋

基本データ

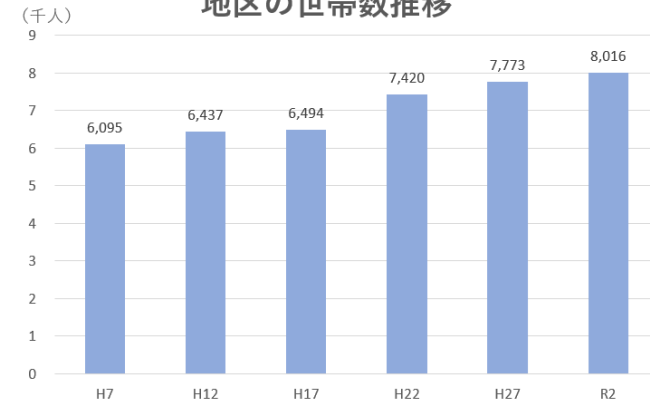
- 面積 約 178.0 ha
- 人口 16,867人
- 世帯数 8,016世帯



地区の人口推移



地区の世帯数推移



※人口推移のH22以前は国勢調査から作成、それ以外は住民基本台帳から作成、各年1月時点

まちづくりの動向・課題

◆良好な住環境の維持と形成

- ・昭和30年代から大規模な計画住宅地が相次いで建設されたほか、伊勢原町地域等で良好な住環境が整備されている。一方、基盤整備が不十分な地域については、市街地環境の改善が必要である。
- ・高齢化率が他地区と比較して高く、超高齢社会を見据えた持続可能な交通手段の確保が必要である。

◆霞ヶ関駅周辺整備

- ・平成18年7月には、北口が開設し駅前広場の供用を開始しており、地域生活拠点（地域核）として、さらなる生活利便施設の充実等、都市機能の集積が期待される。

◆安全な地区内の交通ネットワークの整備

- ・地区の幹線道路である県道川越日高線・川越越生線における渋滞解消、その他生活道路への交通流入軽減が課題である。

◆かすみ北通りのまちづくり

- ・角栄商店街は地域との密着度が高く、独自のイベントやポイント制度「ふれあいポイント」を自ら発信するなど、地域主体での地域の魅力創造や認知度向上に取り組んでいる。

まちづくりのキャッチフレーズ

生涯を 安心して過ごせる いこいの街

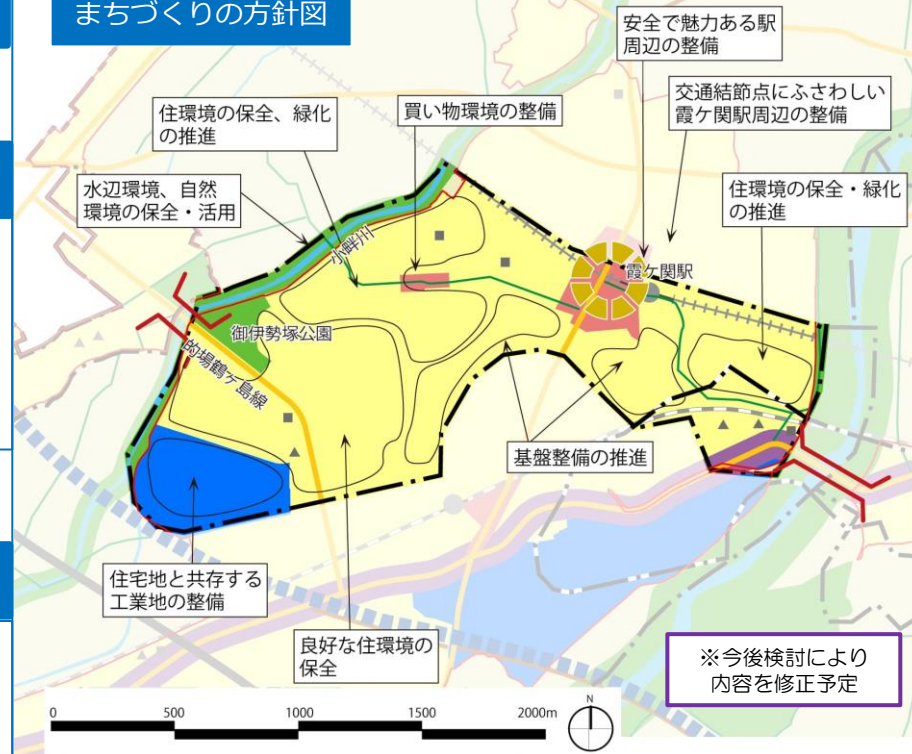
まちづくりの目標

- ◆川越の西部地域の顔にふさわしいまちにしよう
- ◆安心して暮らせる生活環境の整備を進めよう
- ◆水鳥のたわむれる水と緑の豊かな、ゆとりある住宅地にしよう

まちづくりの方向性 (案)

- ◇基盤整備が不十分な住宅地または基盤整備が完了した住宅地について、地域の意向を踏まえながら、地区計画等の導入を検討し、それぞれ住環境の改善または維持を図る
- ◇霞ヶ関駅周辺(地域核)においては、生活利便施設の維持や子育て・高齢者支援施設の充実を図るとともに、周辺商店街等と協働して、若者世代を誘導し、世代間交流を促進する
- ◇県道川越越生線の拡幅等について、必要に応じて検討し段階的に整備を検討する
- ◇地域の実情に応じた適切な交通手段の確保を検討する

まちづくりの方針図



※今後検討により
内容を修正予定

<土地利用>

- 住宅地
- 商業・業務地
- 工業地
- 沿道型利用地
- 農地・樹林地・集落地
- 公園・緑地
- 市街化区域・市街化調整区域

<道路・水路・資源等>

- 都市間幹線道路
- 地区幹線道路
- 河川・水路等
- 公共・公益施設等
- 学校教育施設
- 鉄道・駅
- 主要な橋

<都市構造等>

- 地域核

基本データ

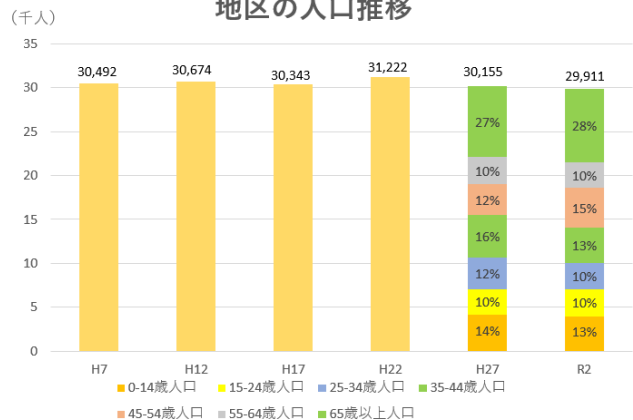
※H22までは川鶴地区の一部を含む

- 面積 約 1117.4 ha
- 人口 29,911人
- 世帯数 13,687世帯

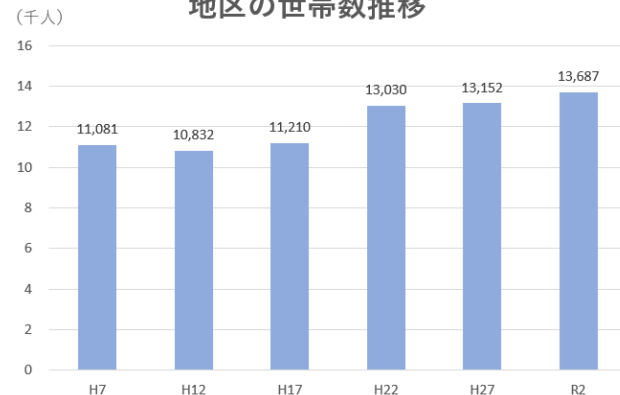


※令和2年1月時点

地区の人口推移



地区の世帯数推移



※人口推移のH22以前は国勢調査から作成、それ以外は住民基本台帳から作成、各年1月時点

まちづくりの動向・課題

◆都市的環境と調和した自然環境の保全、自然環境と共生する開発

- ・地区の約8割は豊かな田園集落が広がる市街化調整区域である。
- ・昭和40年代以降急速に市街化が進み、霞ヶ関駅周辺等では都市基盤が未整備のまま市街地が形成されている地域もみられる。
- ・今後地区全体の人口減少や高齢化が進むと予測される中、持続可能な交通手段の確保が必要である。

◆霞ヶ関駅周辺整備

- ・平成18年7月には、北口が開設し駅前広場の整備を完了した。地域生活拠点（地域核）として、さらなる生活利便施設の充実等、都市機能の集積が期待される。

◆道路網の整備と地域交通の利便性・安全性の向上

- ・圏央道坂戸ICへのアクセス強化のため、坂戸東川越線等の幹線道路や生活道路の整備による交通利便性・安全性の向上が期待される。また沿道においては、周辺に配慮した土地利用が期待される。

◆水と緑の拠点整備

- ・河越館跡が郷土学習の場、市民の憩いの場となる史跡公園として整備（平成21年）されたほか、なぐわし公園が開設（平成24年）され、さらなる活用が期待される。

名細地区②(まちづくりの方向性)

区分	本庁	芳野	古谷	南古谷	高階	福原
	大東	霞ヶ関	川鶴	霞ヶ関北	名細	山田

まちづくりのキャッチフレーズ

なぐわしい※まち 名細

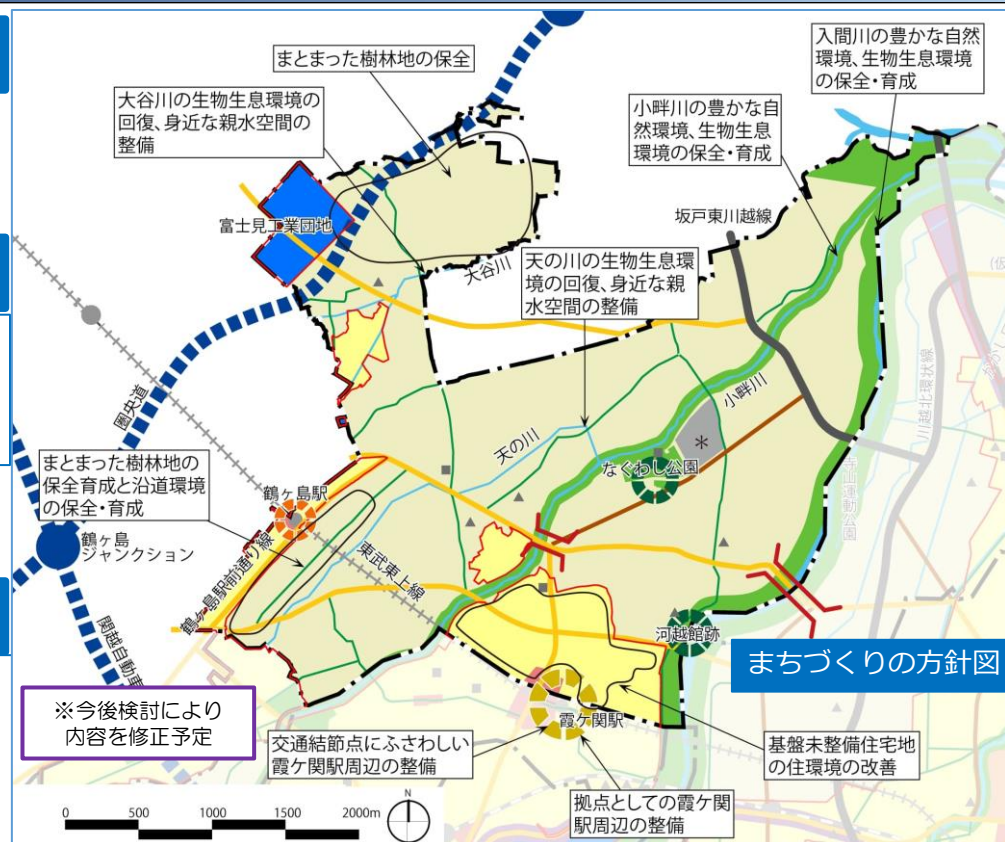
※「名高い」、「美しい」という意味の古歌の枕詞

まちづくりの目標

- ◆守り続け、創りあげるまちにしよう
- ◆自然と都市が調和するまちにしよう
- ◆住みたいまち・住んで良かったまちにしよう

まちづくりの方向性 (案)

- ◇都市基盤整備が不十分な住宅地においては、地域の意向を踏まえて、地区計画等の導入を検討し、住環境の改善を図る
- ◇進行する高齢化に対応するため、霞ヶ関駅周辺(地域核)においては、生活利便施設の維持や子育て支援施設の充実を図ることで、若者世代を誘導する
- ◇鶴ヶ島駅周辺においては、地域コミュニティを育む拠点となる環境づくりを進める
- ◇幹線道路整備による交通円滑化等、必要に応じて検討し段階的に整備を図り、沿道の立地特性を生かした適切な利用を誘導する
- ◇地域の実情に応じた適切な交通手段の確保を検討する
- ◇なぐわし公園、河越館跡を活用し、交流人口の増加など、地域の活性化を図る



<土地利用>

- 住宅地
- 商業・業務地
- 工業地
- 農地・樹林地・集落地
- 公園・緑地
- 都市施設
- 市街化区域・市街化調整区域界

<道路・水路・資源等>

- 広域高速道路
- 広域幹線道路
- 都市間幹線道路
- 地域間幹線道路
- 地区幹線道路
- 河川・水路等
- 公共・公益施設等
- 学校教育施設
- 鉄道・駅
- 主要な橋

<都市構造等>

- 地域核
- 生活核
- 水と緑の拠点

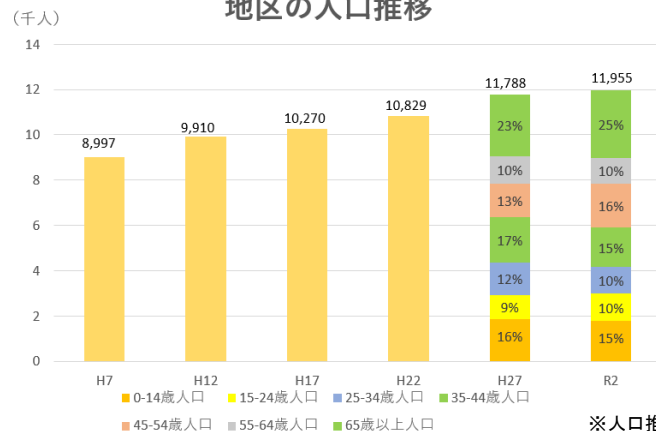
基本データ

- 面積 約 637.4 ha
- 人口 11,955人
- 世帯数 4,977世帯

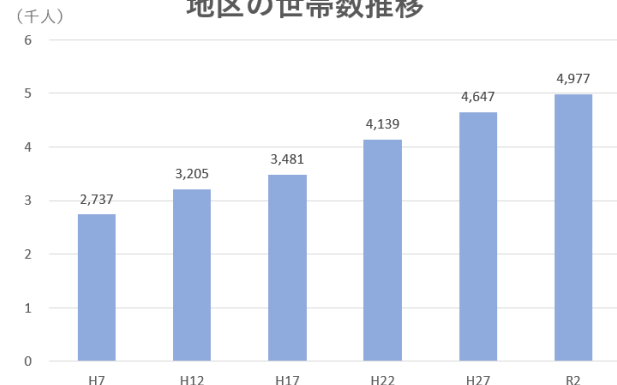


※令和2年1月時点

地区の人口推移



地区の世帯数推移



※人口推移のH22以前は国勢調査から作成、それ以外は住民基本台帳から作成、各年1月時点

まちづくりの動向・課題

◆良好な住環境の保全・形成及び地区内の適切な土地利用

- ・地区の大部分は豊かな農村地域であり、市街化調整区域は地区面積の8割を超え、浸水想定区域（うち想定浸水深3m以上は約1割）の指定は8割弱である。
- ・市街地は低層住宅地が多いが、幹線道路沿道への新たな住宅・店舗等の立地により、住宅、工業、農業、商業が混在している地域もある。
- ・平成31年3月川越北環状線の開通により環状道路網の整備が進んだほか、（仮称）川越東環状線の整備も進められている。また沿道においては、周辺に配慮した土地利用が期待される。
- ・川越志木線（国道254号）と中央通り線に囲まれた道路後退行政指導区域では、地域住民との協働により基盤整備を進めている。
- ・人口は微増し、高齢化の進行が他地区と比較して遅く、これらを踏まえて、引き続き良好な環境の維持が必要である。

◆良好な資源の保全・活用

- ・地区は入間川に大きく縁どられ、昔からの水路が縦横に流れており、生活空間の身近なところに豊かな水の空間がある。また桜つつみや寺山緑地の水辺空間は、水と緑の拠点として今後も保全・活用が期待される。

山田地区②(まちづくりの方向性)

区分	本庁	芳野	古谷	南古谷	高階	福原
	大東	霞ヶ関	川鶴	霞ヶ関北	名細	山田

まちづくりのキャッチフレーズ

人の和で「かかし」ほほえむ北の玄関 山田

まちづくりの目標

- ◆昔も今もこれからも、山田らしい風景が残るまちにしよう
- ◆川越の北の玄関にふさわしいまちにしよう
- ◆快適な暮らしを目指して生活環境の向上を図っていこう

まちづくりの方向性(案)

- ◇住・商・工の共存する地域においては、地域の意向を踏まえて地区計画等の導入を検討し、住・商・工が調和した良好な環境の維持を図る
- ◇川越北環状線、(仮称)川越東環状線等幹線道路沿道の立地特性を生かした適切な利用の誘導を図る
- ◇道路後退行政指導区域において、引き続き地域住民との協働のもと、道路拡幅整備を着実に推進する
- ◇交通利便性の維持を図る
- ◇水と緑の拠点を魅力ある水辺空間として維持・活用を図る
- ◇関係機関と連携した総合的な治水対策を推進する

まちづくりの方針図

